



(様式1)



令和7年 12月 8日

香美市議会議長 小松 紀夫 様

会 派 名 日本共産党
代表者氏名 笹岡 優



調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので届け出ます。

記

1. 日程

- 令和7年10月28日～30日

2. 場所

- 長野県飯田市（おひさま進歩エネルギー株式会社）、南箕輪村、松川町

3. 目的

- おひさま進歩エネルギー株式会社 自然エネルギー事業による地域づくり
- 南箕輪村 ①人口増施策②住む人に優しい村づくり 他
- 松川町 有機農作物による給食づくり

4. 該当する政務活動費の使途項目

- 調査研究費

5. 支出経費（内訳は裏面記載）

- 344,428円

6. 参加議員名

- 山崎龍太郎・笹岡優・浜田百合子・森田雄介・西山潤

7. 成果の概要、所見

- 別紙添付

8. 成果物、資料等

- 別紙添付

(裏面)

支出経費の内訳と金額

区分			金額
交通費	鉄道	自 至 往復	
	船	自 至 往復	
	航空	自 高知空港 至 中部国際空港 往復	163,300
	バス・ タクシー代	自 至 往復	
	借上料	自 中部国際空港 至 飯田市、南箕輪村、松川町往復(高速含)	71,613
宿泊費		ホテルルートイン伊那17,800円×5人 振込手数料 330円	89,330
参加費		おひさま進歩エネルギー研修費15,000円 振込手数料 385円	15,385
駐車場代		空港駐車場 2,400円×2台	4,800
資料印刷費			
会場費			
講師謝金	謝礼金		
	鉄道	自 至 往復	
	船	自 至 往復	
	航空	自 至 往復	
	バス・ タクシー代	自 至 往復	
	宿泊		
	食事代		
	借上料		
合計			344,428

(特記事項)

領 収 証

日本共産党香美市議員団

様

No. _____

★

¥323,913

但 10/8~30 南興車輪村訪問 手配 (前橋代、宿代、L、H、代、高鉄、ガソリン)

令和 7 年 11 月 12 日 上記正に領収いたしました

内訳

税率	金額(税抜・税込)
10%	323,913
	消費税額等
	29,446
税率	金額(税抜・税込)
%	消費税額等

783-0004 高知県南国市大城甲1705-5 桜ビル2階

一般社団法人 物部川DMO協議会

TEL:088-802-5050 FAX:088-802-5051



登録番号:T4490005006626

〈四銀〉キャッシュサービス
ご利用明細票
毎度ご利用いただきありがとうございます。
ただいまのお取引の明細は下記のとおりでございます。ご確認ください。

07-11-12 0215 00Q3 2473
0175021501001****391
お支払 お取引金額 ¥323,913
お受取人 ¥330
11:01

お受取人 ¥385
10:58

(一財) 空港振興・環境整備支援機構
高知事務所
登録番号 T1011105005394
TEL 088-864-4311

領 収 書

精算機 #13 P 精算No.000315
発券機 #12 発券No.085053
入庫時刻 2025年10月28日(火) 08:30
出庫時刻 2025年10月30日(木) 18:57
駐車時間 2日 10:27
駐車料金 A料金 2,400円
合 計 2,400円
(内税10%対象額 2,400円)
現金領収額 2,400円
お預り 2,400円
お釣り 0円
またのご利用をお待ちしております。

(一財) 空港振興・環境整備支援機構
高知事務所
登録番号 T1011105005394
TEL 088-864-4311

領 収 書

精算機 #13 P 精算No.000316
発券機 #12 発券No.085046
入庫時刻 2025年10月28日(火) 08:26
出庫時刻 2025年10月30日(木) 18:58
駐車時間 2日 10:32
駐車料金 A料金 2,400円
合 計 2,400円
(内税10%対象額 2,400円)
現金領収額 2,400円
お預り 3,000円
お釣り 600円
またのご利用をお待ちしております。

領 収 書

高知県香美市 日本共産党市議団 様

令和 7年 11月 12 日

金額

15,000

但

10/28視察料
として

上記正に領収いたしました

内消費税等 1,363 円

住 所

飯田市鼎下茶屋2242-2

氏 名

一般社団法人飯田自然エネルギー

視察・研修報告書

下記のとおり視察・研修を行いましたので日本共産党香美市議団としての結果報告をします。

- 1、視察・研修日程について 令和7年10月28日(火)～30日(木)
- 2、視察・研修先 長野県飯田市 おひさま進歩エネルギー(株)
南箕輪村
松川町
- 3、視察・研修者 笹岡優、山崎龍太郎、浜田百合子、森田雄介、西山潤

4、行政視察の結果

飯田市・おひさま進歩エネルギー(株)

◎地球温暖化を防止する自然エネルギー事業による地域づくりを調査するために、長野県飯田市の「おひさま進歩エネルギー(株)」に伺った。

飯田市は、日本初の「電気利用組合」による市民発電事業の発祥地である。明治32年に「飯田電灯株式会社が運営する出力75KWの水力発電所によって、飯田町(当時)に電気供給された。そして、現在の飯田市竜丘村(現在の飯田市竜丘地区)で、日本で初めての電気利用組合が住民の力で設立され、約30KWの小水力発電により村内に電気供給された。

この伝統がベースにあるのか市役所を訪問すると「信州ゼロカーボンチャレンジ!」「信州ゼロカーボンBOOK」の冊子がすぐに目に飛び込んでくる。

2004年に「地域づくりに貢献するエネルギー事業のあり方とは何か」を模索し、再生可能エネルギーを地域に循環させ、エネルギーの地産地消を進めたいと設立、20周年を迎えた「おひさま進歩エネルギー(株)」。

「おひさま進歩エネルギーの特徴」は、日本初の太陽光発電の市民出資「おひさまファンド」を募集したことだ。

それは、当初は、BDF精製実験から始まり、そして環境省のまほろば事業「環境と経済の好循環モデル事業」を契機に飯田市内の保育園・公民館・児童センターなどの屋根を活用した寄付型から日本初の大規模な太陽光発電の市民出資(出資者への利益配分は2%以上)を実現することにつながった。

出資者数は、北海道から九州まで474名で、飯田市内38施設に設置・運用を進めている。

2009年からは、余剰電力買取制度を活用し、個人宅向けの初期費用0円の太陽光発電事業を展開している。

一般家庭に0円で太陽光パネルを設置し、9年間は毎月定額の料金を電気料で払い、省エネして売電量を増やせば月々の負担が減り、10年目以降は無償譲渡になる仕組みだ。

創立から20周年間の累計設置発電所数は400カ所、累計設備容量1万3,822KW(2025年1月現在)となっている。

天竜川支流の野底川小水力発電事業(出力390KW)にも取り組んで、2023年9月から発電開始している。

飯田自然エネルギー大学や小・中・高校生を対象とする環境学習等にも取り組み人材育成に役立っている。

広大な農地利用の視点でのソーラーシェアリングの普及にも取り組んでいる。

飯田市の全体に貫かれている考え方は、「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例(地域環境権条例)」の「水や空気、土地など地域に固着的な資源を利用して得られる利益を享受する第一義的な権利は地域住民にある」という立場は学ぶ必要がある。

南箕輪村

◎人口増につながる子育て支援策や大学・高校から幼児教育までの教育環境連携の取り組み、在宅医療、介護の取り組みと社協の役割を調査する予定で南箕輪村を訪問した。

女性の議長、副議長と担当課長等が対応してくれ、「子ども館」も視察した。

村政150周年を迎える村で、大きな節目が2004年(平成16年)に行われた市町村合併の是非を問う「住民投票」で、61%の「反対」で自立を選択した。

合併の道を選ばなかったことによって、人口(長野県の村でNO1)、合計特殊出生率(長野県でNO1)、人口増加率(長野県でNO1)、若い村(平均年齢43.8歳で長野県NO1)、日本で唯一(保育園から大学院まである村)、元祖日本一人気のないキャラクターNO1(まっくん・ゆるキャラグランプリ2011で最下位受賞)と「人と人、人と自然とがつながる村」として50年間で人口が倍加以上になる、まさに「小さくても輝く自治体」になった。

その施策は意外とシンプルで、「今住んでいる人が幸せになるにはどうしたらよいか」「住む人にやさしい村づくり」を追求しているしており、それが結果的には口コミで若い子育て世帯の移住につながっている。

「南箕輪村版ネウボラ」を目指して、「こども館」を拠点に母子保健部門・子育て支援部門・学校教育部門を窓口一本化し、妊婦から18歳までを系統的、伴走的に応援する支援策と専任のスタッフによる「女性の就業お仕事相談」など徹底した女性応援策に取り組んでいる。

全国で唯一の保育園から大学院まである唯一の村であることは子育て世帯に

としては魅力的であり、それに村職員として小学校体育専科教員を 2 名配置していることや、児童数増加により 1996 年（平成 8 年）南部小学校を新設したことは驚かされる。

子育て同様に、障がい者・高齢者・生活困窮者の窓口を福祉課に一本化したことも、相談しやすい体制づくりになっている。

保育料の引き下げから無料化、福祉タクシーやセーフティーネットなど福祉医療費の支援対象者の拡大など子育てに優しい環境を整えるために多くの施策を実施すると同時に、開発可能地域での先行しての「農業振興地域の除外」など土地利用計画も進めており、まちづくりの長期的な戦略を持っていると感じた。

大学・高校から幼児教育までの教育環境連携の取り組みや伊那市との行政区域を超えた在宅医療・介護支援策についての広域連携、南箕輪村社会福祉協議会の取り組みと果たしている役割については調査できなかった。

「子育て日本一の村を目指す」とし、「今後は学校教育の充実にも注力していく」とのこと。注目し、継続して調査する必要性を感じた素敵な「むら」だった。

松川町

◎2020年から始まった学校給食で地元の有機農産物を提供する「松川町オーガニックビレッジ宣言」への到達から給食費無償化の取り組みなどを学ぶために担当係長、管理栄養士と懇談した。

松川町学校給食のとりくみは、中央アルプスと南アルプスに挟まれた長野県南部の人口 12000 人の町である。リンゴや梨などの果樹栽培が盛んな地域であるが、近年農業就業人口の減少や遊休農地の増加という地域課題を抱えていた。そこで初めは、遊休農地を使った野菜作りを町民に奨励し、次に地元でとれた有機野菜を学校給食で使えば、安定的な販路が確保でき、新規挑戦する人も出てくると考えて取り組みだした。

2020年(令和2年)に、「松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会」を発足させ、町職員や町雇用の栄養士もいっしょに「有機農業研究会」を継続し、「菌ちゃん先生の勉強会を重ねて有機農業について深めていった。そして、「松川町オーガニックビレッジ宣言」とともに、学校給食のあり方を大きく変革していった。まず生産者 5 人で「ゆうき給食とどけ隊」を結成。ジャガイモ、ニンジンといった基本の野菜と米を一人一品目作って届ける取り組みからスタート。専門家の指導も受けながら、生産者を 12 人に増やしてきた。生産者も学校給食に使われるからこそ、「子どもたちのために」と、努力して栽培している。

更に生産者、栄養士、調理師、搬入業者、町担当者が毎月集まって、「有機打

ち合わせ会議」を実施。野菜生育状況・収穫予想を共有し、献立作成と発注に反映させている。

また学校側も有機農業体験や環境調査を子どもたちと実施し、自分たちの給食がどのようにできているのかを学んでいる。

施策がバラバラではなく、つながっている。それが農家にとっても、子どもたちにとっても良い方向に進んでいると感じた。

そして、町職員と栄養士、「ゆうき給食とどけ隊」、「ゆうき給食づくり隊」へと連携・発展してきている。

松川町の学校給食では、残さい率はわずか1～2%とのこと。児童・生徒が有機野菜の使われている給食をおいしいと感じ、残さず食べている。学校給食の持つ大きな可能性を学ぶことができた懇談だった。

環境保全型農業を推進し、遊休農地を解消しようとの思いがつながりあって、それがまちづくりに発展している点を深く学ぶ必要性を感じた。